

第65回広小路夏まつり・名古屋昇龍みこし

日時／平成28年8月20日(土)・21日(日) 場所／広小路・朝日神社・栄広場特設ステージ



青森ねぶた



秋田なまはげ



富山越中八尾おわら流しおどり



徳島阿波踊り



みこしクイーン表彰式 武藤 俊明氏 (御園支部)



名古屋打ち水大作戦

栄・広小路に集結、日本の祭り・踊り

青森ねぶた、秋田なまはげ、山形花笠おどり、富山越中八尾おわら流しおどり、徳島阿波踊り、沖縄エイサーなど全国各地から集結し、地元の西川流や大治太鼓にタヒチアンダンスも参加した広小路夏まつり。

開会前「第13回名古屋打ち水大作戦」では、午後5時時点の気温33.8度を0.3度下げたが、湿気が増したような熱さに汗ばんだ。

朝日神社境内に名古屋中税務署の野口署長も応援に駆けつけ、「名古屋昇龍みこし」が広小路に威勢よく繰

り出した。白のいで立ちは前年度のみこしクイーン。赤は今年のみこしクイーン2016にエントリーした女の子たち。

沿道一帯に夜店が150店以上立ち並び、点在するステージや広場では歌や踊りなどのイベントが満載。

栄広場では、みこしクイーンコンテストの表彰式や広小路ガールズSHOW、キッズダンスSHOWなどが繰り広げられる。

松原支部 地域社会貢献活動

前塚町天王祭り

平成28年6月4日・5日



資料／今枝 道政氏

プラスワン加入勸奨活動

松原花まつり

平成28年6月25日

新栄・千早・老松東部三支部 会員交流活動

浜岡原子力発電所防波堤見学

平成28年6月21日



資料／加藤 一郎氏

老松支部 プラスワン加入勸奨活動

老松公園夏祭り

平成28年8月8日

栄東支部 会員交流活動

加賀藩の流刑地

「世界遺産五箇山」菅沼合掌集落散策

平成28年8月9日



資料／加藤 一郎氏

栄西支部 プラスワン会員交流活動

堀川サンセットクルージング

平成28年8月10日



資料／正木 利和氏

錦三丁目・御園支部 プラスワン会員交流活動

第65回広小路夏まつり・名古屋昇龍みこし

平成28年8月20日・21日

一夜限りのナイトフィーバー

日時／平成28年9月14日(水) 17:00～20:00 会場／名古屋ケントス 出演／Ha-san (河原 龍夫)、Ha-san Club Band with チャーリー (川村 正 名古屋中法人会会員)



シャインアルファ錦ビル B1名古屋ケントス



会場 名古屋ケントス



The One After 909

歌って♪踊って！出会いと交流

一夜限りシリーズ第二弾はナイトフィーバー。前年の栄広場のビアガーデンは、退社後のサラリーマンたちを楽しませた。今回は「歌って♪踊って！出会いと交流」を合言葉に、地下に潜ってのナイトフィーバーとなった。

開場31年の名古屋ケントス（NAGOYA LIVE HOUSE KENTO'S）は、アメリカが輝いた1950～1960年代の「洒落た空間・音楽」が漂う。狭い入り口から階段通路を下りると広々とした空間が広がり、見渡せばまさにアメリカン。

ここでは毎日生バンドの演奏を聴くことができる。流れる音楽は古き良き時代が思い出され、い

っしか大人たちの憩いの場となっている。

この日は、Ha-san Club Bandのレパートリー「スタンド・バイ・ミー、バケーション、365日の紙飛行機」を期待して、立ち見が出るほどの大盛況であった。

中には初めての人たちもいて、その魅力に改めて訪れたいと話していた。

今年のノーベル文学賞は、60年代始めから今も活躍するボブ・ディランが受賞した。若者の共感を呼んだ「風に吹かれて」「時代は変わる」「ライク・ア・ローレング・ストーン」を仲間と一緒に聴いて見たい。



Ha-san Club Band with チャーリー

風に吹かれて BLOWIN' IN THE WIND

どれだけ道をあるいたら
 一人前の男としてみとめられるのか？
 いくつの海をとびこしたら
 白いハトは
 砂でやすらぐことができるのか？
 何回弾丸の雨が降ったなら
 武器は永遠に禁止されるのか？
 そのこたえは、友だちよ、風に舞っている
 こたえは風に舞っている

(一部、アルバムの歌詞カードより)

第5回理事懇談会

日時／平成28年8月3日(水) 16:00～18:30

会場／東京第一ホテル錦

来賓／名古屋中税務署長

野口 洋氏

副署長(法人・酒税)

伊藤 志朗氏

法人課税第一部門統括国税調査官 荒井 威彦氏

一人一社の勧誘 組織の強化・充実

【議 事】

- ① 会員増強運動の推進について
- ② 福利厚生制度の推進について

【報告事項】

- ① 福利厚生制度推進状況について協力保険会社説明
- ② 平成28年度支部事業の計画(実施)状況について
- ③ 名古屋中税務署の人事異動について
- ④ 主要行事予定について



来賓あいさつ 名古屋中税務署長 野口 洋氏



青年部会会員増強表彰状 全国法人会総連合 平成28年9月9日

地方自治と市民社会のゆくえ

講師／慶應義塾大学法学部教授

片山 善博氏

名古屋市内法人会合同講演会



日時／平成28年9月13日(火) 13時30分～15時
会場／日本特殊陶業市民会館 フォレストホール



次回予告

政治評論家 加藤 清隆氏

安倍政権の今後と課題 ～激動の世界の中の日本～

平成29年2月14日(火) 13:30～15:00 日本特殊陶業市民会館 フォレストホール

あきれた富山市議の辞任

私は税務署長をしたことがあり「法人会」と聞くと懐かしい感じがします。秋田県能代でのことで、昭和54年、27歳でした。その当時、法人会はまだ法人化していなくて、社団法人になるために、法人会会長さんや専務理事さんと一緒に管内に出向き、会員増強や、どんな公益事業をしたらいいか、税務署として不即不離の関係で応援していたことを思い出します。

私は大学を出て自治省（現総務省）に入り25年ほどいましたが、主に地方自治を所管する部門で、地方税（固定資産税・市民税・県民税・自動車税など）の制度がどうあるべきかを検討したり、地方自治の仕事が円滑にできるように後押ししてきました。

「地方自治」とは何か。市民の皆様を支払っていただく税をどう使うか。どんなルールで誰からどんな基準で頂くかを決めるのが「地方自治」です。

最近の地方自治の話題としては、富山市会議員が政務活動費の領収書偽造による不正がバレて辞職したことです。これは脱税です。

議員の役割は、地方自治法に書かれてあるように固定資産税や市民税など地方税の税率を議会で決めて、そして市長や知事が部下たちと考えた予算案を吟味し、承認することです。もうひとつ重要な役割は、決めた通りに使っているか、無駄遣いしていないか、目を光らせることです。

それをチェックする責任のある議員が領収書を偽造するのは言語道断です。当然、議員が悪いですが、その議員を選んだのは市民の皆様です。最後は市民の皆様の責任が問われます。

富山市は、コンパクトシティとして電車を市中に走らせ、機能を集約させて効率的に町づくりされています。ま

た環境に配慮して自転車を機能的に利用できるように駐輪場を随所に設けていて、私としては好感度の高い町でしたので、議員の醜態を見てがっかりしました。

豊洲市場問題からみた東京都政

東京都の豊洲市場移転問題ですが、率直に言って「そんなものだろう」と思いました。と言いますのも、私は鳥取県の知事を8年間務めました。人口60万人弱、東京都の20分の1ほどの日本で一番小さい県から東京都をみていますと、気になることはいっぱいあったのです。その印象は今でも変わっていません。

築地の中央卸売市場が手狭で古くなったので豊洲に移転することになったのですが、問題がいっぱい出てきました。

土壌汚染対策として盛り土することになっていたのですが、建物の下が盛り土されていなくて空間だったのです。東京都は全部盛り土をしたとHPで公表していますので、それでは都民や議会を騙したことになります。どうしてこんなことが起こったのか。

知っていて、公表内容と事実が違っていたら悪質ですが、私はHPで広報する部門と工事の部門との連携がされていなかった。情報を共有できていなかった可能性があると思います。そうであればガバナンスが効いてないということです。

舛添前知事は毎週湯河原に行っていたり、よく美術館を視察されていたそうですが、知事をしていた私の経験から、よくそんな暇があったなと思います。東京都は20年以上トップのガバナンス（組織の統率）が効いていないと思います。いろいろな部局を統合して、相対立する利害を治める役割の人がいなかったということです。副知事がしっかりしていればカバーできますが、東京都は副知事が5人い



ますので、それぞれに担当分野を決めてお互い相手の領域には口出ししない、情報が共有されない縦割りの構造的な問題があったと思います。

広報と情報公開とは違う

2つ目の問題点は情報公開です。情報が市民の皆様と的確に共有できていたか。市民として自治体を監視する市民オンブズマンが各地域にあります。特に税の使い方を監視する団体です。私は市民オンブズマンは知事として重宝しました。依頼していないのに無料でしっかりチェックしてくれるのです。部下職員の中には不心得者もいるわけですから、チェックしてくれたら、大事になるのを未然に防げるわけですから私としては有り難かったです。

市民オンブズマンは自治体の情報公開度をチェックしてランキングをしていて、鳥取県は1位か2位でしたが、東京都はいつも47番目でした。論外のときもありました。

そもそも東京都には、適切に情報を公開しようとする姿勢がありません。東京都に情報公開請求すると、ある人が東京都の情報公開は“ノリ弁”と揶揄しましたが、多くを黒マジックで塗って公開しているのです。

いろいろな情報を出しておけば、批判を受けて身を正して大事になる前に初期消火できますが、東京都はノリ弁でしたから大火事になりました。

ある都知事経験者は、「ツイッターなどで積極的に情報を出すように指示していた」と言っていましたが、情報公開とは、「公開したくないけれど出さざるを得ない仕組み」で市民の権利なのです。出したい情報しか出していないのは“広報”です。

チェック機能を失った都議会

組織は人間がやることですから間違いを起こします。チェックする機能が働けば間違いは早い段階でくい止めることができます。会社なら監査役、公認会計士、株主によるチェック機能があります。最近は社外取締役を置く企業も増えています。

自治体も特に税の使い方をチェックすることは重要ですので、各自治体には数人の監査委員がいますが、影が薄いんです。あまりチェック機能を発揮していないかも知れません。

最大のチェック機関は議会ですが、形骸化しているところが多いようです。

東京都議会はどうか。議会を見た第一印象は、できあがったシナリオを読んでいる学芸会のようなものでした。それではチェック機能は働きません。

豊洲市場移転は大事業ですから、議会がチェック機能を発揮する機会はいくらでもあったはずですが、HPIには全部盛り土にしてあると公開してありますから、それを前提に建物の設計図と比較して職員に説明させれば、辻褄が合わないのわかるはずですが。

豊洲市場は農林水産省が承認しなければ開設できません。今の状態では許可されませんから、また余分な税金が使われることになるでしょう。

税務署長をしたときに強く感じたことですが、市民の皆様には誠実に納税していただいているわけですので、税を徴収する側としては税を無駄遣いしてはいけないと身に染みて思っていました。



大きくなりすぎた東京都

もうひとつ東京都には構造的な問題があります。大きくなりすぎたのです。

名古屋市中央卸売市場が移転する場合、名古屋市の責任になります。でも東京は東京都知事の仕事です。オリンピックも、ロンドンや北京は市の仕事でしたが東京は都の仕事ですから、リオデジャネイロへは小池知事が次期開催地の旗をもらいに行きました。

東京は、地下鉄・水道・下水・消防なども都の仕事です。東京都知事は、県知事と市長の仕事を兼ねているので本来なら寝る暇もないほど忙しいのです。

昭和18年戦時体制のとき、東京府と東京市が合併、府知事は官製知事と言って政府の役人がやっていて政府直結でした。それが今に至って、あまりにも膨大になって市民に縁遠くなっています。税の使い方をチェックしようと思っても大変なのです。元に戻すことを考えなければ本当の地方自治にはならないと思います。

名古屋や大阪で、県・府と市が合併しようという話がありましたが、東京都のようにガバナンスが効かず、情報公開ができず、チェック機能が果たされないものを目指そうというのは、それは民主主義から遠ざかることに思えます。中京都構想も自然消滅しましたし、大阪都構想も市民の投票でダメになりましたが、私はいい選択だったと思います。

あまりにも大きくなると地方自治は運営不能になります。東京都はいささか、そういう症候群に陥っています。それが豊洲市場問題の遠因だと思います。

身近な市議会議員選挙にもっと関心をもとう

これからは身近なことにもっと関心をもってください。

選挙というと、衆参の国政選挙は話題になり盛り上がります。県知事や市長選挙も関心をもたれますが、市議会議員の選挙には「誰がなっても同じ」と関心が薄いです。でも一番身近な選挙が一番大事なんです。そこで市民の皆様にとって重要な福祉や教育、環境の分野にどれほどお金を使うかを決めているのです。

保育所待機児童問題で騒がれていますが、なぜもっと保育所にお金をシフトさせなかったのか。それを決めたのは議会です。

どういう代表を選ぶか。有権者一人ひとりの関心と見識の問題になるのですが、日頃から身近なところに目を向けて、より良い地方自治を市民の力で作り上げなければなりません。

税金の使い方をよりよくするということに、皆様ももっと強い関心を持っていただければと思います。

※この記事は平成28年9月13日(火)の講演を要約したものです。

文責／公益社団法人 名古屋中法人会



「住吉の語り部になりたい」⑩

名古屋遊興文化の発祥は「三業者の街・住吉町」

料亭つたも主人・深田 正雄

紫川から白川へ

昭和32年頃まで、蔦茂の筋向いの伝光院には紫式部のお墓・五輪の塔があり泉が湧いておりました。住吉一帯は泉に恵まれ川の源流となり、それは、紫川と呼ばれ2万7千年前頃の旧石器時代の竪三蔵遺跡、縄文時代の白川公園遺跡・紫川遺跡が流れに沿ってありました。

海拔11・5Mの台地にある料亭蔦茂には現在3本の井戸があり、深さ33尺(10M)に木曾の伏流水が豊富に流れております。開府400年を迎える清洲越えて町衆が住むために徳川家康に命じられた豊臣恩顧の大名は碁盤割の各ブロックに25本前後の井戸を掘り庶民の生活用水としていたようです。現在も当店ではこの井戸水で中庭の鯉は澁刺と育ち、生け花はいつまでも元気、調理用としても活躍しております。この3本の井戸も誰が掘ったかわかりませんが、きっと名古屋築城と時を同じにしていると祖父は申しおりました。

源流は蔦茂界隈、標高差4m、流域1.5kmの紫川は、住吉から西に現在の商工会議所南を流れ(白川公園遺跡)伏見通りを南下して若宮通りを西に洲崎神社の南から堀川に暗渠として現在も流れております。町内には豊富な伏流水を活用し、繁盛した酒屋住吉屋があり、大株を持つ商人だったので町名にしたという説もあります。(北見昌朗氏・旧町名説明より)

明治時代となり、汚水でどす黒くなり紫川がきれいになって欲しい願いを込めて白川と呼ばれるようになったといわれています。



紫川流域図

三業者の街、芸人・文化人の遊興の町

元禄の頃、御豊奉行朝日文左衛門は芝居が大好きで、目立つ本町通りを避けて住吉界隈で深編み笠をかぶって、若宮八幡、清寿院、大須観音、七つ寺に出かけたようです。このころから本町から一本東にある住吉通りは下町風情豊かな芸者・置屋・料亭の三業者の街として栄えました。

特に宗春治世の頃は、多くのからくり師、能楽師、芸人、小唄、常盤津、新内、舞踊、茶道、華道の師範達が全国各地より住吉界隈に居住し、遊興文化のクラスターとなりました。

「戦前の住吉は、芸者300名、料理店・置屋40店舗以上で大きな料亭が軒を連ねていた……」とのこと。

戦後、私が小学生の頃には、住吉通りの西はキャバレー、東は割烹店・料亭が多く繁盛していたことを思い出します。広小路から南は住吉町1丁目、焼け残った富国生命ビルの上階は廃墟となり鳩・カラス・蝙蝠の巣窟でちょっと気味悪く子供達も近寄りませんでした。1階は赤玉パチンコ、地階はキャバレー赤玉と山田泰吉氏の中部観光グループの礎で、後の東急グループへの承継となった永沼憲男さんもここからスタート。そして、昭和36年10月に泰吉さんが東京・赤坂に「東洋最大級」と謳われたレビューキャバレー『ミカド』を開業させたものの、レストランシアターのコンセプトが浸透せず、昭和39年東京オリンピック開幕を待たずしてミカドの運営は破綻してしまいました。これに連鎖して中部観光グループも経営が行き詰まり、丁度、東名高速道路の開通を見据えて名古屋進出を目論んでいた東急グループに昭和40年4月買収され、現在は、東急REIホテルとなっております。

富国生命ビル南にはバー三姉妹、地元の邦人相手の最初のクラブと言われ、財界夜の商工会議所といわれた「なつめ」オーナーマダム加瀬文恵さんがデビューしたお店、パーティゲアは大喜ビル、三越食堂はイデックス・IDディスコと姿を変えています。そして、南角にはキャバレー女の城、サロン赤い靴

と進駐軍アメリカ兵隊さんと共に名古屋の庶民が一緒に享樂していたようです。

東側には今も残る栄町郵便局、栄銀座の路地を挟んで古川煮三郎氏・フルタメさんが買収した住吉ホテル（今春、焼肉あみやき亭開業）、タバコ屋の米ちゃん、茶道具の長宜堂、南角にはうなぎ割烹「うお興」、山田静雄先生の新々薬局はドラッグ日用品のディスカウントでは名古屋で最初ではないでしょうか？そして、界隈に多くあったのがタクシーの操車場、住吉1丁目には丸八タクシー、2丁目には朝日タクシー、鉄砲町2丁目には東和タクシーが外車とトヨタクラウンを並べていたようです。

そして、住吉2丁目東は割烹・料亭街：北から料理・千代富久、かしわ香楽、うどん戸田屋、ふぐ料理灘屋、おでん「くに平」、割烹住吉、タチソウ、麻雀富月センター、榎本マッサージ、そして、料亭蔦茂と三業者の老舗が花街を形成していました。西は文具卸・菊花堂から高級バー「シロー」ほか、飲食店が軒を並べ、大型キャバレーメイフラワー、ゴールデンナイトは泰吉の実弟、山田久太さんの経営で何度も火事騒ぎがありましたが、建築物は現存し現在上田土地（株）が管理されています。住吉小路を挟んで、寿司の豊年、南角には住吉薬局がご夫妻で住み込み営業されていました。三蔵通り沿いには、靴卸近藤産業、中日・中経の菅井新聞店が懐かしい。菅井さん宅には多くの新聞配達中学生が住み込み生活、同級生の菅井隆光君と一緒にカウンターで「婆抜き」トランプやメンコをして遊んでもらいました。

芸者・置屋・料亭三業者「伝統芸能と遊興のクラスター」住吉も昭和41年に新住居表示として栄3丁



昭和33年つたも新車クラウンと母のり子
背景は左より：寿司豊年、キャバレーメイフラワー、シロー、街路樹、電柱
広告「蔦茂」、マッサージ榎本治療院
看板が懐かしい



料亭つたも外観図（高瀬氏画）

目として風情も粋も感じさせない名称に近隣町内と一緒に変更統一。高級料亭の連なる住吉2丁目東側も各店舗の事業形態が大きく変遷してきました。現在は料亭蔦茂のみが遊興の町の面影を残しています。

3年前、名古屋市登録地域建造物資産 第100号に創業100年の料亭蔦茂が認定

数年前に名古屋市都市景観条例が改正され、身近な歴史ある建造物を地域の資産として「登録・認定」する新たな制度がスタートしました。

野口和樹さんの尽力もあり、平成25年創業100年を迎えた料亭蔦茂が記念すべき第100号登録され地域に残る歴史的建造物を多くの人に知ってもらい、それらを大切にしていく気運の醸成につなげ、歴史的建造物の保存・活用を推進する街のランドマークと認定されました。

蔦茂は現在地で大正2年創業、昭和20年の戦災で建物は全て消失しましたが、庭・池の石、清州越えからといわれる3本の井戸が残りました。戦後、いち早く現存する黒塚本館を昭和21年に市内で最初の旅館として開業。昭和27年岩城誠一郎氏設計の玄關ビル内に当時初めて和風料理屋を作るユニークさで話題、そして、本格数寄屋造りの別館、昭和33年には息子・岩城誠作氏と共に屋上にゴルフ練習場を併設・ユニークな宴会場ビルなどが名古屋の粋を守りモダンな料亭として現在も稼働しております。

これからも住吉で唯一、70年間現存する建物の風情を守り、名古屋で最も歴史ある料亭「日本文化のテーマパーク」として、皆様のお役に立てること楽しみにしております。



昭和32年版中区住宅地図12ページ・
富沢町4丁目から住吉1-2丁目周辺